

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570103067		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホームゆうあい ていじさん家(2F)		
所在地	新潟市西区上新栄町4丁目4番地13号		
自己評価作成日	2023年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ラジオ体操、リハビリ体操で体を動かしたりドライブ等にも出掛け活気良く生活を送っています。利用者様一人ひとりの得意とする事を発揮できるようレクリエーション、季節を感じて頂ける掲示物の作成や家事を通して支援しています。また介護職だけでなくご家族や訪問看護、居宅療養管理指導の医師とも相談し連携を図り支援に繋がっています。排泄に関してはスムーズな排便が促されるよう薬の調整や水分調整だけではなく良質な油や食物繊維の多い食事を提供し取り組んでいます。フロア内の定期的な換気、消毒の継続を新型コロナウイルスだけではなく病気の予防にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市西区の住宅街の一角にある。自治会に加入しており、コロナ禍以前は地域の行事に参加したり、事業所の祭りに地域の方が参加したり、ボランティアの受け入れや地元の小学校生徒の受け入れなど地域との交流が盛んに行われていた。現在も地域の防災訓練に参加している。開設時は地域からの反対があったが、丁寧な関わりをもち、現在は地域に溶け込んでいる。

利用者の声に耳を傾け、思いや意向に沿った利用者一人ひとりにあったその人らしい支援が行われ、利用者、職員個々の関係性によった声かけが行われている。食事時間に間に合わない方は起きてから食事を行うなどその方の生活スタイルを尊重している。また、その方の得意なことが事業所で発揮されている。共用空間では笑顔の利用者の姿が多数みられた。

健康面では、協力病院の医師による定期的な訪問診療や法人の訪問看護事業所の訪問があり、急変時に訪問看護がかけつけてくれ、適切な医療を随時受けられる体制が整っている。感染症対策については、訪問看護から研修を受けて備える仕組みができています。

職員同士の連携がとられており、意見があれば随時管理者に伝えることができる。今年度から、本部の事務長が事業所の会議に出席し、現場の声がさらに伝わるようになった。また、管理者も気になった職員に声をかけて悩みを聞いたり、職員が利用者の支援により時間を集中できるようさらなる支援に力を入れている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念のもとに、利用者主体への支援に取り組んでいる。	開設時のメンバーがそれぞれのユニットで話し合ったものを出し合って理念が作られており、開設時からの理念を継続している。年2回の職場内研修で理念の再確認がされている。また、ケアに行き詰まったときに理念に立ち返って検討を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩に出掛けたり、地域の方と挨拶を交わしている。	コロナ禍前は事業所の祭りに地域の方が来られたり、ボランティアや小学生の職場体験の受け入れ、地域の茶の間に出かけるなどのつきあいを積極的に行っていた。現在は、利用者が散歩で挨拶をしたり、広報誌を地域の回覧板に出したり、地域の防災訓練に職員が参加している。感染状況が落ち着けば、地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っていたが現状ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各フロアの取り組みや活動報告や近況を郵送で報告している。質問、意見、要望を受けサービス向上に活かしている。	利用者・家族の代表者、自治会長、地域包括支援センター職員、法人・事業所職員がメンバーとなり、コロナ禍前は対面での開催で活発な意見交換が行われていた。現在は書面での開催となり、事業所の活動状況を報告している。	書面開催でも意見を出してもらえるように、ヒヤリハットの報告やあらかじめメンバーへの質問事項を添えるなどの会議運営方法の工夫に期待したい。地域包括支援センターなどメンバーの所に訪問して書面を渡すなどの顔が見える関係を築き、さらなる意見交換ができるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、介護相談員は受け入れを行っていない。ケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、何かわからないことがあれば電話やメールでやり取りができる関係である。また、市の主催する研修会に職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りや利用者様の様子から状態を察知し声掛けや見守りを行い出来るだけ利用者様と行動し気持ちに寄り添い支援している。	日中は玄関が開けられており、外出をしたい利用者は職員と一緒に出かけている。急に立ち上がって転倒をする可能性がある利用者にはセンサーを用いているが、センサーを外すことができないかを検討している。また、職場内研修で身体拘束、虐待についての勉強会を開催し、職員の理解に努めている。	転倒防止や排泄の不潔行為がみられる利用者のケアについて、職場内だけではなく、法人内のグループホームや地域包括支援センターなど外部からの意見を参考にしながら本人にあった認知症ケアの検討がされることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待について理解を持ち対応している。対応が難しい利用者様への対応は職員が代わったりすることで一人で対応しないよう配慮している。	外部講師からの研修、法人のグループホームの職員が参加した研修会の伝達研修が行われている。利用者への言葉遣いなど不適切なケアを見かけたらその場で注意している。職員へのストレスマネジメントとして、休み希望を取り入れたり、職員の話管理者が聞いたり、職員がケアに集中できるよう管理者が工夫している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要と思われる利用者様がいない為、対応していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は施設長が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や訪問時、気軽に意見や要望を言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望はその都度ミーティング等で話し合っている。	利用者からは入浴時などリラックスしているときに意見が出されている。ドライブなど外出への希望が聞かれ、その日のうちに出かけるなどの対応がとられている。家族からは面会や電話連絡時に意見が寄せられている。面会の時期や方法、外出等について意見を受け、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は会議等の際に意見や要望を聞く機会を設けている。	毎月、ユニット会議を開催している。面会の方法や食堂の亚克力板の使用に関することや、外出や物品の購入などについて職員から意見が出されている。また、普段の業務内でも職員から積極的に意見が出されており、意見は管理者が上司に相談し、可能なものは運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課を行い職員が向上心を持って働けるようはたらきかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状は年間に行われている外部研修に職員が参加出来ていない。毎月テーマを変えてネット配信をみながら個々に勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修会や勉強会に参加する機会が現状では行えていない。ネット配信で個々に同じテーマの勉強や研修でサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人からの情報や事前面接で状況を把握し職員が本人を受け入れられるような関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し事業所として出来ることを事前に話し合い良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の状況を把握し改善に向けた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に生活を送りながら利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し協働しながら生活できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いをご家族に 伝えていき本人を支えていくための協力関 係が築けている。	家族には受診の送迎や季節に合わせた衣類交換 をお願いしている。現在、感染防止対策として時 間を区切った面会を実施しているが、本人と直 接携帯電話でやり取りしてもらったり、オンライン (Zoom)での面会もある。担当職員からは毎月、利 用者の様子をエピソードを書面にして利用者の写 真を同封して送っており、家族から好評を得てい る。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限を設け面会を再開し始めた。一人ひと りの今までの馴染みの関係を継続できるよう にしている。	なじみの人が面会に来られることはないが、年賀 状など手紙が送られており、お礼に電話で話をす る方がいる。また、ドライブで利用者の自宅などな じみのある場所に出かけるようにしており、なじみ の人や場所の関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	利用者様一人ひとりの状態は常に把握する ように努めている。利用者様同士のトラブル が生じた場合はダメージが残らないように配 慮しながら良い関係が保てるよう常に努めて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援が行えるよう継続 的な付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で利用者様の表情や言 葉、行動からさりげなく確認し職員間で情報 を共有し把握するよう努めている。	担当職員が本人の思いを確認している。入浴場面 など本人がリラックスしているときに確認する他、普 段のやりとりの中で本人が話した言葉から意向を 把握していることもある。本人からの発言は記録に 残し、職員全員が共有できるようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	利用者様とご家族と情報を共有し会話から 生活スタイル、職歴などを把握しより良いケ アに繋げている。	利用前には、主任・副主任が自宅や介護サービ ス事業所に訪問し、本人の暮らしやサービスの利用 状況を確認している。「センター方式」のアッセ メントシートを家族や職員がわかる範囲で記載し、こ れまでの暮らし方を把握している。畑仕事や衣類の 裾上げなど利用者がこれまで行っていたことを現 在のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを知りバイタルチェック、健康管理に努め状態を把握し記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員で意見交換とカンファレンスを行っている。モニタリングにより介護計画の見直しを行っている。	担当職員、計画作成者が協議して介護計画の原案を作成している。本人の意向を重視したその人らしい、無理をしないで達成できる内容が盛り込まれている。援助内容の実施状況は毎日記録されている。カンファレンスは毎月行ない、達成状況を確認し、必要時は計画内容の変更を検討している。	多職種の連携のもとで支援がされている。今後は、家族や訪問リハビリ職員等による支援内容も介護計画に盛り込み、さらに、チームで取り組む介護計画ができることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を職員が確認できるようにしており職員同士の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に合わせて往診・通院など必要な支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では地域の相談員やボランティアの受け入れが行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望に応じ対応している。かかりつけ医のない方に対しては協力病院により居宅療養管理指導を受けている。	事業所の協力病院の医師が訪問診療に来ているが、これまでのかかりつけ医を継続することもできる。法人の訪問看護事業所が毎週、利用者の状態を確認している。緊急時は、訪問看護に連絡し、医師へ連絡できる仕組みがとられており、適切な医療がスムーズに受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護を受けながら利用者様の状態を伝えたり個別に相談し対応してもらっている。場合によっては電話での相談にも応じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供してご家族と共に回復状況など情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を聞いたうえで事業所が対応し得るケアについて説明し医療関係者と連携を図るよう取り組んでいる。	入居前に事業所ですることを説明している。重度化への対応については、利用者が寝たきりになっても複数の職員がシャワーで入浴の支援を行っている。終末期には指針や関係書類を用意して希望に合わせて看取りを行える体制がとられている。家族には毎月の手紙で状態の報告を行い、時期をみて重度化や終末期に向けた話し合いを行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には常時、訪問看護へ連絡をして指示をもらい対応している。	事業所内にAEDが備え付けられている。コロナ禍が落ち着いたら講習会への参加を予定している。急変や緊急時のマニュアルが整備されており、感染症などへの対応も行われている。急変時は訪問看護事業所に連絡し、指示を仰ぎながら支援をしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練系計画に沿って月に1回利用者様と共に火災、地震、災害の避難訓練を行っている。年に2回は消防署立ち合いの避難訓練も実施している。また地域の協力体制は自治会と共に築いている。	毎月災害時の避難訓練が行われている。その際、利用者も避難をお願いしている。火災・地震を想定、消火訓練、緊急電話連絡を使用する訓練を行っている。また、地域の防災訓練に職員が参加したり、消防署の立ち合いの訓練では地域の方の参加が得られており、地域との協力体制がとられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切にさげすまない言葉掛けをし自己決定できるよう対応している。	利用者が自己決定しやすいように、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。排泄や入浴などの介助場面では尊厳に配慮した対応を心がけている。記録は利用者の見えないところで記載・保管しており、プライバシー・個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者様のペースを大切に希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し本人の希望のカットが出来るよう連携を図っている。衣類も利用者様自身が今まで着ていたお気に入りの衣類をご家族に伝え持ってきてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にテーブルセットを行っている。誕生日には本人が好まれているメニューを取り入れたりしている。	利用者の希望を取り入れ、職員が毎食手作りで提供して、一緒に食べている。利用者からは洗い物、盛り付け、食器を拭くなどできることに参加してもらっている。また、利用者が育てた野菜を使ったり、お寿司の出前や誕生日のケーキ、おはぎやお好み焼きづくりなども取り入れ、利用者がおいしく楽しんで食事がとれるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握しその日の体調に合わせて提供している。摂取量の少ない方には好まれる物を食べやすい形状にする等して召し上がって頂けるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様全員に声掛けを行い実施している。お一人でできない方には付き添いながら口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し利用者様一人ひとりに合わせた排泄方法を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表ですべての利用者の排泄パターンの把握に取り組み、時間帯やしぐさなどその方のタイミングを逃さずトイレへの誘導を行なっている。本人への声かけもさりげなく行われている。現在、トイレで排泄される方は半分くらいであるが、継続して自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘予防として食物繊維や乳製品、発酵食品を取り入れ水分補給や体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り希望の時間に合わせて入浴して頂いている。	午前、午後と入浴時間がとられており、その方の希望に合わせて入浴を支援している。職員が準備から入浴後の整容までマンツーマンで対応し、その方のペースに合わせた入浴が支援されており、利用者にとってリラックスした時間となっている。希望があれば同性介助に対応している。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、時間や日にちを変えたり、職員が交代して声かけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様に対し寄り添い、話を傾聴し安心してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに整理し内容を把握している。新しく追加になった薬は状態の変化について確認し主治医や訪問看護に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮出来たり、本人への負担が多くなならない範囲で行えることを手伝って頂き感謝の言葉を伝えている。デリバリーで食事を発注したりドライブで気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に合わせ気候の良い日には庭の散策、ドライブ等に出掛けられるよう支援したりお墓参り等でご家族と外出されている。	天気や利用者の希望に合わせて、事業所前を散歩したり、玄関先の椅子で日向ぼっこを楽しんだり、ドライブに出かけている。ドライブは利用者のなじみのある場所に出かけるよう配慮している。コロナ禍が落ち着いた時には果物狩りや水族館などへの外出再開を検討している。利用者にとっては外出が楽しみのひとつとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全体として預かり金として管理しているがご家族了承のもと、少額を自らの財布に入れ持っている利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けられるようにし、手紙もご本人からお預かりし職員が投函したりし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけと一緒に作り季節感を入れて心地よく過ごせるよう支援している。	季節感のある飾り付けを意識して行っている。また、誕生会や行事などの予定をポスターにして貼り、利用者にもわかりやすく伝えるようにしている。窓が広く、海など自然の景色を楽しむことができる。温度は適切に管理され、共用空間のソファで休んでいる利用者の姿もあり、居心地の良い空間がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり気の合った利用者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込まれ本人が心地よく安心して過ごせるよう支援している。	事業所ではエアコン、クローゼット、洗面台を用意し、それ以外の家具等は持ち込んでもらっている。ベッドやソファ、家族の写真、若いころの作品、お仏壇などなじみの物、大切にしてきた物が持ち込まれている。居室の清掃については、掃除機かけが可能な利用者にはお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に物を置かず安全で歩きやすい環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				